

麻生区区民会議 第15回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成28年2月16日（火）午後3時～午後5時
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：〔専門部会委員〕
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
（欠席）横田委員
〔事務局〕 井上、白石、麻生 [コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者 0名
- 5 議 事
 - (1) 企画部会の報告について
部会長より説明。
 - (2) 区民会議フォーラムについて
事務局より説明。
 - ・当日は12時に第1会議室に集合、委員控室は第4会議室となる旨確認した。
 - ・アンケート内容を「ボランティア活動に参加していますか。参加している場合はどんな活動に参加していますか」に決定した。
 - (3) 検討経過報告について
事務局より説明。
 - ・1ページ目が読み辛いように感じるなど、修正箇所があれば、3月4日までに事務局に連絡する旨確認した。
 - (4) 前回の会議の振り返りについて
コンサルタントより説明。
 - (5) 提言に向けて
部会長より全体の提言の雛形の説明あり、項目出しについて本日審議を行いたい旨、提案がなされた。
コンサルタントの進行で、縦軸（効果的な情報発信・参加への一押し）と横軸（基礎的仕組み・理想的仕組み）に配置された提案カードに基づき、審議を進めた。

【主な意見】

（ボランティアの啓発のカテゴリーについて）

- ・まずは「目指すべき社会像を知ってもらうこと」が大切。その背景には高齢化の問題がある。
- ・ボランティアのまち・麻生のようなキャッチコピーを設定しイメージを固め、区の方針を知らせたい。
- ・自分探しというフレーズはニュアンスが異なる。「第二の人生」という意味合いの方がよい。
- ・ボランティアは社会奉仕だけではなく色々な意味がある。そういったことも含めてトータルで、目指すべき社会像を知らせることが必要である。

（体験講座のカテゴリーについて）

- ・アクティブシニアのような講座を年1回でなく、いつでも受けられるとよい。
- ・実際には体験講座はあちこちにある。社協でも複数のリストから講座を紹介している。講座がないという訳ではない。講座があることを知らせる必要がある。
- ・単発的なボランティアから継続的な活動へとつながるよう、開催する人は、参加者に対して細かな配慮が求められている。

(情報発信の 카테고리について)

- ・「手渡し」は確かに効果的である。しかし、実際には大変な作業である。
- ・効果的なタイミングと場所が求められている。その点では市政日より区版が有効である。
- ・市民館日より回覧で周知しているので、手元に残らない。やはり手元に残る市政日よりよい。
- ・「区政日より」というものを3か月に1度でも発行できないか。区民記者を活用してもいい。
- ・実際には、行政には人も予算も不足している、地域メディア紙と連携することも考えられる。
- ・データベース化について、紙媒体の冊子では更新が必要なので、継続が困難。フェイスブックなどのITの活用も考えられる。
- ・大切なことは、データベースそのものを知らせるのではなく、データベースがあるということ、知らせることである。あることを知っていれば、必要に応じて、自ら取りに行くのではないか。
- ・具体例として、3月部会で、あさお区民記者クラブが提案事業で作成した冊子を配布する。参考にしてもらえればと思う。

(相談窓口の 카테고리について)

- ・相談窓口があるということを知ってもらうためには、たとえば、市政日より区版に毎月定番の枠で知らせるのはどうか。
- ・市民館、やまゆり、社協の連携の部分は人材育成連絡会議で審議を進めているところではないか。
- ・相談可能な内容に行政が事業委託している「子育て」の分野も加わるとよい。
- ・何をやりたいのかわからない相談者がいる一方で、やりたいものを明確に抱いている相談者もいる。
- ・相談員はデータベースがあるということを知っていなければならない。
- ・区民のみならず団体もそこに行けばわかるという窓口が求められている。

(提言の対象について)

- ・区民会議は区長に対して提言するということを前提として、提言をまとめていく必要がある。
- ・行政ではすべてを受け止められない。最終的には地域におろしていくイメージではないのか。
- ・行政が、区民に対して啓発するような形としての提言となるのだろうか。
- ・行政と団体とが協働で解決するというパターンもある。
- ・第4期の提言ではあらゆるパターンを想定して、「・・・が望まれます。」、「・・・が期待されます」等、語尾を工夫している。

(総合的なコーディネイト機能の 카테고리、提言の大枠について)

- ・ボランティア情報センターは、色々な機能を束ねているイメージか。
- ・様々な機関で、既に機能があるのではないのか。それを組み合わせることが重要なのではないか。
- ・今までの分野ごとの議論は、前々から色々な会議で審議されてきた。しかし、全体をコーディネイトする視点が不足している。
- ・確かにパーツパーツは揃っている。それらを連携させていくことが求められる。
- ・カテゴリごとに分けても実際は重なっている部分が多い。ぐるぐるとまわっているのが実際のところ。
- ・総合的なコーディネイト機能を持つボランティア情報センターが理想的な仕組みであり、提言の着地点であることは、前回の部会で合意している。センターが有する機能を審議する必要があるのではないか。
- ・理想的な仕組みであるセンター側の視点からみて、今まで審議されてきた内容から必要となる機能を積み上げて、提言を固めていく形でどうか。その方向から検討すると、たとえば、各機関の相談窓口は各々の分野に強い窓口であることが求められる。

【決定事項】

提言の大枠の組み立て方を確認した

- ①「区民に目指すべき社会像を知らせる」
- ②知らせることによってボランティアに関心を寄せた人の受け皿として、一步を踏み出すための理想的な総合的なコーディネイト機能（ボランティア情報センター）を提示する。
- ③センターに必要な各機能として、今まで審議してきた「効果的な情報発信」や「参加への一押し」の各要素を取り入れて示す。